

受領No. 1690

「被爆体験」を問い直す―東友会「被爆者相談記録簿」の 全容解明に向けた資料調査・研究を通じて―

代表研究者 西井麻里奈（名古屋工業大学 准教授）

共同研究者 八木 良広（昭和女子大学 助教）

愛葉 由依（名古屋大学 助教）



Reconsidering the “Atomic Bomb Experience” : Historical Research Based on the Tōyūkai Hibakusha Consultation Records

Representative Marina Nishii (Associate Professor, Nagoya Institute of Technology)

Collaborator Yoshihiro Yagi (Assistant Professor, Showa Women's University)

Yui Aiba (Assistant Professor, Nagoya University)

研究概要

冷戦体制の崩壊後、第二次世界大戦期の戦争体験や、その個人的・集団的な記憶（「戦争の記憶」）について世界的な議論が巻き起こり、そのなかで原爆投下とその影響に関する人文社会科学的研究も大きく進展した。だが、被爆や核に関する記憶や社会的認識の形成過程、「被爆体験」の「継承」等に関心が向けられる一方で、被爆者の戦後生活や援護の実態に関する史的解明は未達成である。

上記の課題に対し、本研究では被爆者が他者に悩みを訴える局面＝「被爆者相談」に注目し、東京都の被爆者団体・東友会が蓄積した約 5000 名分の「被爆者相談」の相談記録簿を分析する。①被爆者を取り巻く構造・制度・政治・社会・人を含めた、より広い関係性のなかで「被爆体験」とは何かを問い直すこと、②被爆者相談を担う相談員の取り組みを明らかにし、さらに戦争・科学技術・ケアをめぐるジェンダー論的検討に接続すること、③被爆者相談資料の恒久的保存・活用の道を開くことを、本研究の目的とする。